

子宮頸がん検診と パピローマウイルス検査

函館中央病院
産婦人科

三田村 卓

医長



子宮頸がんは、全世界の女性の悪性腫瘍による死因の第4位となつている重要な疾患です。子宮頸がん検診の普及により諸外国では死亡数が減少傾向にあることが報告されていますが、最近日本では40歳以下の若い女性で増加傾向が認められています。子宮頸がんは、前癌病変あるいは初期のがんで見つかった場合、治療により極めて高い生存率が望めますので、いかに検診で早期の病変を見つけれられるかが重要です。以前は子宮頸がん検診といえば子宮頸部から細胞を採取して顕微鏡で観察する作業が中心でしたが、子宮頸がんの原因の90%以上がパピローマウ

イルスの感染が原因であることがわかってからは、細胞検査と同時にウイルス感染があるかどうかの検査を行う国が増えてきました。細胞とウイルスの2段階検査により、何も症状がなくても前癌病変が見つかる場合や、逆に細胞検査で多少の異常があつても年に何度も痛検診を受けなくても良い場合が判断できるようになりました。そのため一人一人への、より細かい対応が可能となり、以前より安心して子宮頸がん検診を受けることが可能となってきました。

子宮頸がんの前癌病変が見つかり、子宮の一部だけを薄く切除する手術を受けた後に妊娠された女性がいまいます。このような治療成功症例は全国で多数報告があり、早期発見により進行がんの発生を防ぐだけではなく子宮の機能を温存することが可能となっています。

子宮頸がん検診は内診があるため受診を避けられがちですが、他のどの癌よりも効果が高い検診です。欧米では女性の8割が受診している安全な検査で、一度受診された方の多くがその後定期的に受診されます。自身や家族のためにも、一度受診してみませんか？



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代)
<http://www.chubyou.com/>

■診療科目／内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全24科目

■受付時間／8:30~11:30、13:30~16:00

※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。

■休診日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)

【略歴】

平成13年、北海道大学医学部卒業。北海道大学病院、函館中央病院、帯広厚生病院、八雲総合病院、北海道がんセンター、テキサス大学勤務を経て、平成28年より函館中央病院産婦人科に、同科医長として勤務。日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医。